

新しい仙台市基本計画策定に向けて 「みんなのせんだい未来づくり」

市では、2030年までの10年間を計画期間とする新しい「仙台市基本計画」の策定に取り組んでいます。8月にまとまった基本計画の中間案を基に、今後のまちづくりで私たちができることを考えるイベント「みんなのせんだい未来づくりーチャレンジを続ける新たな杜の都へ」が10月4日に開催されました。

当日は会場に70人の市民が集まったほか、YouTubeのライブ配信を利用して約30人がイベントに参加。総合計画審議会の委員が、中間案に掲げる8つのチャレンジプロジェクトについて実際の



▲それぞれのプロジェクトに興味を持った理由や、まちづくりに関する意見などを画用紙に書いて、自由に発表しました

地域活動の事例などを交えながら説明した後、参加者がどのプロジェクトに興味を持ったかなどを発表しました。

参加者からは「多様な人々が活躍できる場を作り、刺激し合える環境があるといいのでは」「仙台市民の一人として、自分に何ができるか、どんなことにチャレンジしたいか考えていきたい」などの意見が寄せられ、互いの意見に興味深く耳を傾けていました。

今後も市民の皆さんからいただいたご意見を踏まえながら、新しい基本計画の検討を進めていきます。

市政トピックス

地域の防犯活動に貢献された方を表彰

市では、長年にわたり地域における防犯活動に取り組んでいる方々を毎年表彰しています。

10月13日に行われた全国地域安全運動第32回仙台市大会で、8団体・124人の方々を表彰しました。このうち、防犯功労団体、防犯功労者、退任感謝状を贈呈した方は、次のとおりです(順不同・敬称略)。

〔防犯功労団体〕 仙台駅前商栄会、長町地区防犯協会、西多賀防犯協会、川平地区防犯協会、大倉地区防犯協会、総合グラウンド前防犯協会、東大通防犯パトロール隊、松陵三丁目町内会

〔防犯功労者〕 浅野るり子、千石勝雄、荒若久好、横山富二夫、喜世幸男、本郷泰弘、亀井健二、柏館芳枝、野田和良、相澤養治、門倉英二、工藤博、星恭治

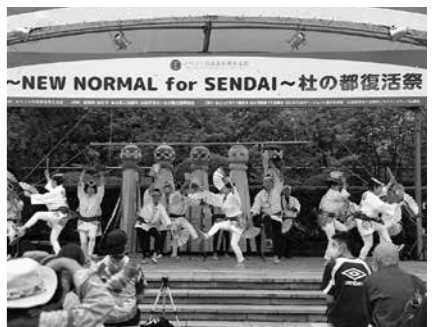
〔防犯指導隊員・防犯女性部員退任〕 塚田一郎、小笠原勝雄、城寶男、遠藤勝男、二階堂敏朗、辻裕美、鈴木公男、齋藤正、太田孝、大久保勝彦、早坂勝良、鈴木太、氏家敏夫、上田ゆき子、最上みゆき、村上恵子、早坂チイ子、佐藤幸枝

「新しい生活様式」での屋外モデルイベントを開催

市政トピックス

新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまなイベントが中止となっています。市では、適切な感染対策が講じられた上で不特定多数の来場者が集まる屋外イベントのモデルケースを作るため、イベントを開催する事業者を募集・審査し、4事業者に対し経費の一部を補助することとしました。

10月3日には、勾当台公園市民広場で補助事業の一つである



▲すずめ踊りのステージは、生き生きとした演舞で盛り上がりました

「NEW NORMAL for 仙台」の都復活祭が開催。会場では入場時の検温や体調チェック、いすや手すりなどの定期的な消毒を行い、間隔を空けて座席を配置するなど、さまざまな感染対策が取られました。

メインステージでは色鮮やかな仙台七夕の吹き流しを背景に、すずめ踊りの演舞や定禅寺ストリートジャズフェスティバル出演者による演奏が披露され、訪れた人は久しぶりに生で見るにぎやかなステージに見入っていました。また飲食ブースでは、キャッシュレス決済で接触を最小限とするなど工夫しながら、市内の飲食店などが東北の名物などを販売しました。

市では今後、モデルイベントで得られた効果や課題などを検証し、そのノウハウを広く共有していくことで、屋外イベントの再開に向けた動きを後押ししていきます。

市政トピックス

音楽で仙台に元気を ークラシックエール 仙台

楽都仙台の秋の風物詩、仙台クラシックフェスティバル、通称「せんくら」。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、新しい生活様式に対応した特別企画として「クラシックエール仙台」が10月3日・4日に日立システムズホール仙台で開催されました。イベント名には、文化・芸術に関わる方や市民の皆さんへ、クラシック音楽を通じてエールを送るという思いが込められています。

会場では、今年生誕250周年を迎える作曲家・ベートーベンの作品を中心に、15公演を上演。クラシックコンサート初心者や子ども連れでも気軽に楽しめるプログラムから、クラシック好きの方がじっくり楽しめるプログラムまでさまざまな公演が用意され、多くの方がその演奏に聞き入っていました。

市政トピックス

大倉ダムに舞うこいのぼり

9月20日から22日まで、青葉区の大倉ダムで、地域の小・中学生などが制作したこいのぼりを掲げ



るイベント「鯉のぼり×大倉ダム」が開催されました。

これは、青葉区民協働まちづくり事業として、地域住民等の有志でつくる「大倉ダムの魅力発信実行委員会」が企画したもので、昨年からは、今年5月に2回目を開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となり、9月の開催となりました。

今年、上愛子小学校と広陵中学校の児童生徒が、新型コロナウイルス感染症の早期終息を願って、「アマビエ」を描いたこいのぼりを新たに2本制作。36本のこいのぼりが、悠々と秋の空を泳ぎました。青空に色とりどりのこいのぼりがざらりと並び、家族連れなどがその景色を楽しんでいました。

3.11 震災文庫を 読む

強い意志で乗り越えていく
株式会社MCラボ代表取締役 阿部 清人



石井正 著
石巻災害医療の全記録
講談社

「東日本大震災 石巻災害医療の全記録」『最大被災地』を医療崩壊から救った医師の7カ月



サンドウィッチマン
著 扶桑社 刊

「サンドウィッチマンの東北魂あの日、そしてこれから」

災害時には、医療の需要と供給に絶対的なアンバランスが生じます。私の出身地である石巻市では、多くの医療機関が津波により被災したため、医療崩壊の危機に瀕しました。当時、石巻赤十字病院の医師だった著者は、災害医療コーディネーターの立場から、7カ月にわたり合同救護チームを指揮して、最大被災地を医療崩壊から救いました。その支えとなったのは、「救える命は全力で救う」という強い意志だそうです。

コロナ禍で医療崩壊が危惧されています。この課題の処方箋は、震災時の医療現場が直面したことと共通するものがあるのかもしれない。

仙台出身のお笑いコンビ、サンドウィッチマンは震災後、「東北魂」の名の下でチャリティーライブなどの被災地支援活動を行っています。本書は「笑って東日本大震災の風化を防止する」というラジオ番組の内容からピックアップした対談集です。多彩なゲストとのトークの中に、震災の話題がすんなり入っていて、くすくすとしてしまったりと引き込まれていきます。これからは番組で東北のことを書いていくという強い意志を持っているお二人。仙台を代表して、被災地から全国へ向けて情報発信している姿が頼もしいです。本の中で、富澤さんの口癖「ちょっと何言ってるか分からない」箇所はありませんのでご安心を。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585